Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2008.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.39

CONTENTS

- オランダのジャーナリストが撮影した
  ”デジタル・モノクローム・ファインプリント”
- 【ご挨拶】（第 12 回写真展挨拶文）
- 【写真の夢】（第 12 回写真展に送られた平木先生の文章）
- ゾーンシステム研究会第12回写真展全作品
- ゾーンシステム研究会第12回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第12回写真展 Technical Information
- ファインプリントコレクション展鑑賞会
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

オランダのジャーナリストが撮影した
”デジタル・モノクローム・ファインプリント”

中島秀雄

昨年の 12 月、赤坂にある高級オフィース家具ショールームで、オランダ人による写真展が開かれた。写真家の名前は Karel van Wolferen （カレル・ヴァン・ウォルフレン)。写真家の名前を見て私は眼を疑った。私が今読んでいる本の著者だった。カバンから本を取り出して確認し、その偶然に驚いてしまった。最近、外国人ジャーナリスト達による日本文化への発言や提言がマスコミを賑わし、私は少なからず興味を持ち何冊かの本を読んでいた。ウォルフレンもその一人だった。彼は、1941 年オランダに生まれ、アジア特派員として 17 年間活躍し、オランダ・ジャーナリズムの最高賞を受賞している。また、日本外国特派員協会会長を歴任し、多くの人から信頼されているジャーナリストである。最近の著書に「日本人だけが知らないアメリカ「世界支配」の終わり」(すでに世界はアメリカ抜きで動き始めている。日本はいつまでアメリカにすがりつくのか) は政治・経済の新しい現実を綿密な取材と緻密な分析で明らかにした論文として高く評価されている。ジャーナリストであれば世界を歩き、見聞し、文章を書き、取材するその合間に写真を撮ることもあり、写真展を開くことに何の違和感もない。

会場，＋PLUS（プラス・プラス）

左から中島、（株）アスペンの高良千賀子さん、北野氏、ウォルフレン氏　　撮影：橘田

しかし、今回のウォルフレンの写真作品は、彼の専門とするジャーナリズムの世界と大きく離れていた。アメリカの自然や日本の風景に 8×10 インチの大型カメラを向け、現在注目されているデジタルによるモノクローム・ファインプリント(100×91cm)になっていた。世界の動向のディテールを独自の情報網によって収集し、それを基に緻密に分析した文章を書く氏のイメージからは想像できなかった。

ガラス張りの明るいショールームに展示された製品は、明らかにオフィースをイメージしてレイアウトされている。工業デザインで一歩も二歩も進んでいる北欧やイタリヤのオフィース家具は、見るだけでも楽しい。透明ガラスとスティールが組み合ったデスク、曲線と局面が織り成す木目調の椅子やテーブルに、見るだけでは満たされずつい触れてみたくなる。どの製品もその上質感と機能美に引き付けられるが、ゼロが多いプライスだった。

その通路や壁面に、ウォルフレンのモノクーム写真が展示されている。オフィースという特異な空間にウォルフレンの自然作品はうまく溶け込んでいて、違和感はなかった。

無機質になりがちなオフィース空間に高品質のプリントを展示することで、デスクワーカーに安らぎを与えることがテーマだと担当者は語っていた。写真展示の場がギャラリーだけではなくもっと一般の人たちに知らせることも必要で、ギャラリー企画による新境地としてみても興味深い写真展になっていた。

今回、最初に展覧会場を訪ねたとき、担当者から作者ウォルフレンと話をしてみないかという誘いがあり、後日、数人に連絡したところ北野、橘田両氏が参加して実現した。そのときのウォルフレン氏の発言をまとめた。

(n、中島、w、ウォルフレン氏)

n　独学で写真を学んだと聞きましたが、独学で難しかったことは何ですか

w　好きなことに興味をもってやってきたので難しいことはなかった。

n　写真は学校へ行って学ぶ必要はありますか。

w　写真を学ぶ上で特に学校へ行く必要はない。

n　あなたの写真を見ていると、そのクォリティーには過去の銀塩写真の経験が活きているように思う。

w　デジタル拡大プリントの決定は、過去の銀塩プリントの経験が活きている。
そういう意味で最初は銀塩でやってみるべきだ。

n　あなたの本を読むと、新聞や雑誌からは読み取れない世界の出来事のディテールが見えてくる。8x10 カメラを使って自然のディテールを捉えようとしていることとつながるように思う。

w　まったくその通りで、世の中の出来事のディテールを文章にすることは本職で、大型カメラで自然のディテールを見ることが写真の目的なのだ。

n　写真撮影で最も大事なことは何か。

w　最も大事なことはコンポジション(構図)だ。そして、光。　(大木の写真の説明)

n　この写真の大事な部分は何。

w　これ以上明るくしたくないし、暗くしたくなかった。これはデジタルプリントによって可能になった。(草原の写真の説明)
Zone System　によるプリントはまだコントラストが高すぎる。柔らかなトーンに仕上げることで今まで見えなかったディテールが見えてくる。デジタルによる拡大プリントがその方向性を示している。

n　拡大プリントを見ていると実景を見ているように感じる。

w　拡大プリントは、三次元的視覚効果によって現実の風景の中にいるように感じ、

バーチャルが容易になる。

n　撮影にネガ・カラーを使うと聞きましたが。

w　リバーサル・カラーで撮影するときもあり、ネガで撮影するときもある。
日本アルプスの写真に写る木々のシャープネス、林と林のトーンの違い、そこにある微細なディテールは銀塩プリントで見ることは出来なかった。
420 ミリのニッコールレンズはすばらしい。
(日本アルプスを撮った写真説明)

n　倉庫の写真は、あなたが建築物の美しさに強く引き付けられたように感じますが。

w　その通りで、倉庫の写真はリバーサル・カラーで撮影した。今回もカラー・プリントにしようと思ったが、モノクローム・プリントにしたことで美しさとテーマがよりはっきりした。倉庫の入り口はカラー・プリントでは完全につぶれていたが、デジタル・モノクローム拡大プリントではわずかにトーンが出た。紙質の効果で細い電線も見ることが出来るでしょう。　(倉庫写真の説明)

n　プリント・テクニックとしてバーニングやドジングがあるが、デジタルも同じような操作は可能なのか。

w　暗室におけるプリント・テクニックと同じように、バーニング、ドジングはキーボードで可能だ。

n　このプリントを見ていると、フレーミングがすばらしい。長く写真に関わってきた写真家と感じる。　(水の流れを切り取った写真)

w　水のディテール、特に中間調は、銀塩モノクローム・プリントでは充分に表せなかった。デジタル拡大プリントにより、ハイライトのわずかなトーンも表すことができた。

n　自然の中で被写体はランダムに点在していて、フレーミングが難しいときもあり、決定に時間が掛かる。あなたの場合はどうですか。

w　撮影にはフレーミングは大事で、私はすぐに決定できる。
岩、石は自然の中ではランダムに点在している、この写真の場合も私はすぐにフレーミングは決定できた。時間はかからなかった。
(川の写真の説明)
かつてボートで川を下りながら連続撮影した写真は、すべてフレーミングは完全だった。

n　すでに次のテーマは考えていますか。

w　ハッセルブラッドにデジタルバックを使い、小型カメラによる拡大プリントからマルチプリントすることを試して見たい。4x5 カメラ用デジタルパックが 60 万円くらいで手に入る、あなた達はそれがいいのではないか。

n　スキャニングは何を使っていますか。

w　ドラムスキャンがベストだ。

n　今日は、忙しい時間にありがとうございました。
あなたにお会いできたこと大変光栄でした。

w　私もあなたにお会いできたこと光栄に思います。

豆知識・写真の渡来

写真が日本に入ってきたのは 1848 年(嘉永元年)、**オランダ**と唯一の貿易港であった長崎から長崎の商人上野俊之丞常足(うえのしゅんのじょうつねたり)によって輸入された。その後ダゲレオタイプは薩摩藩の島津斉彬に渡り、科学者たちを集め指導し、自ら銀板写真の被写体となった。その日付が 6 月 1 日だったことから 6 月 1 日が日本の写真の日となっている。

【 ご挨拶 】

この度、**ゾーンシステム研究会**は、第 12 回写真展・光への探求を開催いたします。

1988 年、川崎市市民ミュージアムで始まったワークショップ “グレードアップ・フォトグラフィー” は、アンセル・アダムスが考案したゾーンシステムを習得することでした。その後 1995 年**ゾーンシステム研究会**として発足しました。

私達は撮影に大型カメラを用いることから、自然風景や都市風景、静物に目が向きます。そして、カメラが見るように対象を見る必要があると常に考え、そのためにカメラ、フィルム、印画紙等の特性を充分知ることからスタートし、大型カメラの特長である緻密なファインプリント制作につなげています。

自然界の様々な光の中で、私達はまず光を理解することからスタートします。ゾーンシステムは光を理解する最も合理的な方法というばかりではなく、ビジュアライズを可能にし、そこから適正露出やフィルム現像時間さえ表示してくれる優れた方法だと捉えています。

高度のデジタル画像が主流の現在、銀塩写真の特質が問われる時代へと移行しているのかもしれません。科学と化学とアートが融合した銀塩写真制作のプロセスには、時として創造力の源に引き込まれる魔力のようなものを感じるときがあり、そこから立ち上がるファインプリントには他の表現メディアでは成し得ない美しさがあると思っています。

銀塩写真を続けるための環境も大きく変化してきています。しかし、すべて無くなるとは思えません。新たに参入する企業も現れています。
私達はフィルムや印画紙が手に入る限り、これからも銀塩写真の世界を楽しんで行きたいと思っています。

ゾーンシステム研究会代表
中島秀雄

（ゾーンシステム研究会第 12 回写真展挨拶文）

【　写真の夢　】

　かつて夢見られたような手軽で便利、
しかもそれなりの画質を確保できる高性能なデジタル写真が、
いまや世間の主流となった。
そんな時代にぼくが浅い眠りのまどろみの中で見る写真の夢は、
現代の実情とまったく矛盾したアナクロな夢だ。
それがアナログ写真であることはいうまでもない。
これは駄洒落ではない。

…がらくたの山のような古びた中古カメラ店で、
ふと不思議なフォーマットの蛇腹の暗箱を見つけ出し、
それに使えるレンズや部品をジャンクが無造作に放り込まれている箱から探し出そうとする…
という夢で、これが目覚めたあとも甘美な余韻を残してくれる。
そして、同じような中身の夢を何度も見たように思う。
心理学者じゃないので深い意味はわからないが、
どうやら写真が手作りだったあの日に帰りたい、
という願望の現われだろう。

　ゾーンシステム研究会の面々の作品を見ていると、
その甘美な夢が思い出される。
写真が手作りされ、夢がひとつ、またひとつと現実になったような、
そうした満足感が伝わってくるのである。
1930 年から 40 年ごろの、
いい写真をめざす努力と結果がとても調和していた時代、
いわば写真の黄金時代のプロセスとクゥオリティーを時流に遡行して追い求めるのは、
現代における「写真の夢」の追求だといえるだろう。

平木　収 / 写真論

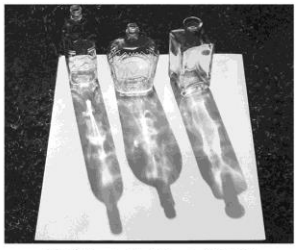
（ゾーンシステム研究会第 12 回写真展に送られた平木先生の文章）

ゾーンシステム研究会第12回写真展［光への探求］全作品

中島秀雄

【透過する光の観察】
ガラスビンを透過する光には予測できないおもしろさがある。
しかし、午後の陽の動きは速く、白いボードから影が逃げていく。
セットをやり直し、光の動きを待つことにした。
【流木】
木々の間から、直線に伸びた流木が目にとまった。
流れる水や石と調和させることに時間はかからなかった。
【水差しのある空間】
テーマパークの一室にあったもので、最もバランスのとれた空間
にたどり着いたと思った。
【サングラスをかけた日系二世】
カリフォルニアにある日系人が経営する農場に立ち寄った。
サングラスに私が写っていた。
【プロフィール】
東京写真短期大学(現・東京工芸大学)卒業　細江英公氏の助手
バーモント州ゾーン・ワークショップに参加
ゾーンシステム研究会代表
東京工芸大学非常勤講師　京都造形芸術大学非常勤講師
個展・グループ展多数　ゾーンシステム・ハンドブック出版
日本写真芸術学会会員

流木



透過する光の観察

水差しのある空間

サングラスをかけた
日系二世

松本ひさ子

【ネクタイ】
昔、ネクタイを選ぶのが好きでたまってしまった過去の産物。
処分する前に日の目を見てキリをつけようと思った。
【CHIANG MAI】
タイ北部、古都といわれる旧市街は城壁に囲まれている。
人々の朝は早い。
【プロフィール】
秒の世界とレンズをすり抜ける光にお任せの銀塩写真。
魅せられて11年。

CHIANG MAI

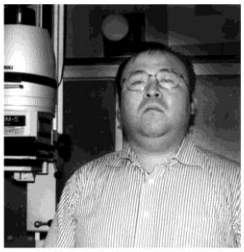
ネクタイ

荒井崇

【橋脚】
ライフワークの1つとして橋脚をモチーフにしています。
この橋脚は碓氷峠の廃線跡に残る橋脚で、森に佇む美しい曲線ラインが魅力的でした。
【牛留湖】
乗鞍麓にある小さな湖です。
湖面に映る木々と湖面に育った草木の調和が見事な湖です。
【プロフィール】
・アサヒカメラ2006年2月号掲載 ［橋脚］
・個展［橋脚］開催
2004年2月～3月　外苑前ギャラリーDAZZLE、 鎌倉ワイン館
2006年5月～6月　青山アートスペース瑠璃
・ゾーンシステム研究会会員／JPA会員／フォトスカラベ会員

橋脚

牛留湖



石井政吉

日本とまったく気候の違うヨセミテの景色を4x5インチのカメラで撮影しました。
大判の深いトーンのおかげで、木の質感、水上の岩の存在感、そして日の当たる草の感じを美しく出すことができました。
【プロフィール】
東京写真専門学校　写真学科観光写真専攻卒
現代写真研究所　研究科英ゼミ終了

木の枝と炭の切り株

岩

水と木（葉）

小野望

モノクロ写真の白と黒、その中間の微妙なグレーの持つ美しさはモノクロ写真だけの世界であると感じ、その美しさに魅了され大型カメラで日本の素晴らしい自然を記録している。
現在、表情豊かな森に魅せられ「森と水」をテーマに森の表情を撮り歩いている。
【CACTUS】 アリゾナ州　ニュウリバー
フェニックスの近郊西部劇を彷彿させるサボテンを強調させた。
【NEW PLACE 】 アリゾナ州
長い年月を経て自然が作り上げた美しい造形美。
【FOREST】 カリフォルニア州　ヨセミテ国立公園
山火事の後再生した森林
【プロフィール】
・日本写真作家協会会員
・日本写真家連盟会員

CACTUS

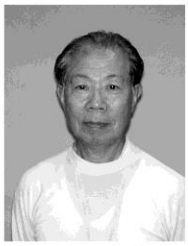
NEW PLACE

FOREST

越後久雄

【High Tide】
今年3月の三浦半島。
岩の間をはうように押し寄せるなみをスローシャッター（NDフィルター使用）でトライした。
【プロフィール】
1949.6生
モノクロ写真に魅せられ、大判写真を始めたのは3年前。
ファインプリントの道を修行中です。
暗室ワークは手作業で正直しんどい時があります。
なぜ苦労してまでやるかというと、それは銀塩写真の美しさに魅せられたためでしょう。

High Tide



岡崎克之

【プロフィール】
1980年　葛飾フォート入会
1999年　ゾーンシステム受講
どちらも現在に至る。

夢の島へ

加藤貞雄

【共生】
栃木県北、高原山中腹の尚仁沢は年間を通して水温11度と、環境省の名水100選に選ばれたマイナスイオン水を、日量65.000トン湧出する幽玄の地です。
周囲の木々にも神掛かったような雰囲気を感じます。
露出は樹をスポット測光し、その値をゾーンスケールのⅡとⅢの間に設定し決定しました。
・撮影日　2007.8.25　PM5:00

共生

北野龍一

草木は、思わぬところで、思わぬ時に輝きを見せてくれる。私は身近な場所で、そうした草木を見つけて、感情を交えることなく淡々と撮って行きたいと思っている。

【春　ー沖縄ー 】

1月沖縄・浜比嘉島の海岸で見つけた6～70センチもある大アザミ。春の陽を受けて、力強い茎立が輝いていた。

【夏　ー荒崎海岸ー】

荒崎海岸の岩肌にしっかり根を張り、初夏の太陽を楽しんでいる草を見つけた。

【秋　ー落葉ー】

植物は、枯葉となってもそのアイデンティティを主張する。 新宿御苑から持ち帰った一枚の枯葉は、レンズの前で最後の輝きを見せてくれた。

春　ー沖縄ー

夏　ー荒崎海岸ー

秋　ー落葉ー

小菅秀一

現在、サラリーマン生活30年目53歳。
日頃の雑事を絶ち、仕事と写真のみの人生を歩んでおります。
写真は、「風景」と「静物」を主に撮影、「感動できる写真」を残したい一心で撮り続けています。
今は、定年後の「写真だけの人生」を夢見ております。

【岩】　千葉の海岸にて撮影。

何度か歩いた場所で、偶然この「岩」に出会う。
夏の順光で撮影。不思議な表情とその滑らかな岩肌は、長い年月経て今の姿になったのか。時折うち寄せる波は、刻々と岩の表情を変えていった。

【渓流】　秩父にて撮影。

この渓谷は、連日の雨でいつもより水量が増していたようだ。
川中の岩場に立ち、この渓流をしばらく眺めた後、撮影を開始。
朝の光が和らいで、少し暗くなった瞬間を捉えた。

岩

渓流

橘田功

ゾーンシステム研究会に入会して5年、モノクローム歴12年になる。
全ての色の情報を白から黒のトーンに置き換えて表現する、何とも得難い魅力が有る、
作品が何を言いたいのかを如実に表現させてくれるのがモノクローム。
これをファインプリントで表現する為に研鑽して居ります。

【プロフィール】
1939年生
1997年　第71回　国展　初入選
2005年　国画会　準会員
2006年3月　個展「中欧の街から」橘田功写真展
　　京セラ・コンタックサロン東京
社団法人　日本写真協会　会員
日本写真作家協会　会員
東京都小金井市在住

豊かな流れ

花火

大地を掴む

清涼

酒巻澄江

東京都出身
昨年の写真展を拝見し、いたく感動いたしました。
そして、自分の探していたもの（世界）はこれだと思ったのです。
4月にゾーンシステムワークショップにて中島先生のご指導を受け、
7月にゾーンシステム研究会に入会いたしました。
ファインプリントへの道はまだ入口すら見つかっていませんが、
4x5を背負って東奔西走、先輩諸氏の後を必死でついて行こうと
思っています。

【作品コメント】
富士山5合目、枯れて風雪に晒された木々。その存在感を写したいと思いました。

奥庭にて part1

奥庭にて part2

古谷津純一

大判写真機と過ごす休日は、スローでなんとも贅沢な時間である。
暗室作業もまた、時間を忘れて没頭できる私自身の喜びであり、
現在では趣味の域を越えて“戦いである”とも思っている。
【HARLEY DAVIDSON XLH883】
近所の理髪店主の宝物で、いつもピカピカにしている。
主人に頼み、現場に運んで頂いて、私の宝物で撮影した。
【HERE COMES THE SUN】
夜が明け、河口に陽が差し込んで輝きはじめた。
♪Here Comes the Sun. . . Beatles が聞こえてきた。
【ON THE SHORE】
テトラポッドに打ち寄せた波が、音を立てて引いていく。
白く帯状に引く波は、淋しそうに見えた。
【PLANT AT DUSK】
近い将来閉鎖されるという近所の工場。
夕陽を浴びた窓ガラスが、美しくも淋しそうに訴えていた。

ON THE SHORE

HERE COMES THE SUN

HARLEY DAVIDSON XLH883

PLANT AT DUSK

畑文夫

【Divergent Surf, Point Lobos】
カリフォルニアの明快な光の中にいると、この地でファインプリントが発展してきた理由がわかるような気もする。
アダムスやウエストンが見ていたのと変わらぬ波が打ち寄せ、そしてそれは永遠に繰り返される. . .　そんなことを考えていた。

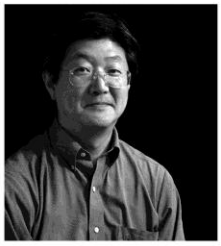
Divergent surf, Point Lobos

鈴木武志

【暮れる街】
日はアメリカの街でも赤い光の手で柔らかく温かく、木々を垣根を、そっと撫でて暮れる一瞬キラッと輝かせていた。 そんな光の美しい暮れなずむ刻を。
【音を忘れた観光地】
創られた繁栄のルツボをほしいままにした男達の昔の金鉱に、今は置去られた、さやかな微風が遊んでいる。
【プロフィール】
写真を生業として59年。 就学のため中抜けがあったとしても未だ〝写心が創れず〟修行の身。

暮れる街

音を忘れた観光地



浜野次郎

ピアノの名手Adamsのゾーンシステムは精密に調律された楽器を想起させます。
冴えたハイライトは高音、深い暗部は低音。
響き合う分散和音のごとく画面を構成したいのですが、ピントグラスに映る形に幻惑されつい衝動的にシャッターを切り、そこから悪戦苦闘が始まります。
【青林檎】
ちいさな林檎が主旋律。
腐食銅板と磨いた真鍮板が通奏低音。
自宅での卓上撮影。
【Water Tower】
天頂をさして屹立する
旧い醸造工場に残された給水塔。

青林檎

Water Tower

宮岡貞英

最近は私自身の色気が無くなった為かその殆どがモノクロ写真で、
帰宅後は一人暗い暗室の中で時間を忘れ楽しんでいます。
今回は沖縄の海の写真と福井県敦賀の瀧の写真です。
【Sea Rock】
沖縄の太平洋側の海は波も高く小さな岩山の浸食も激しいものが
あり、今回の写真もその岩山を写したものです。
【Water Fall】
敦賀の瀧は今年の春の長雨の為水量が多く地元の人が驚くほど
の見事な瀧になっていました。
この写真からその情景が少しでも感じられれば幸いです。

Water Fall

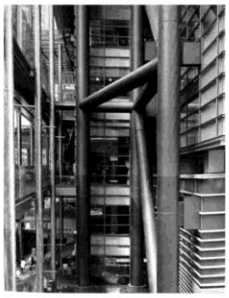
Sea Rock

長谷川登

主に5×7インチのフィルムで撮影しています。
無限の階調表現と幅広い解釈が可能な白黒写真。
就中、現像液のなかの印画紙に次第に浮かび上がり、
結像する被写体に魅了されています。

Civic Center I

Civic Center II



Shiodome N

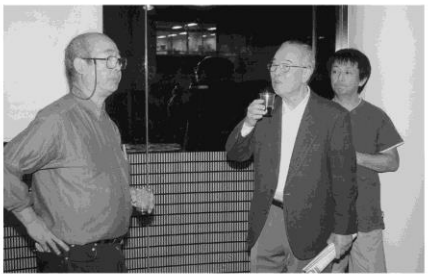
昭和7年東京出身。
昭和26年頃から写真に興味を持ち、平成に入り本格的に活動再開。
デジカメによるカラー写真全盛の時代に逆らい、写真の本筋は銀塩のモノクロであると信じ、モノクロの画面で美しさを感じさせる作品作りを目標に努力中。
紹介写真に写っている愛犬もモノクロです。今回の作品はヨセミテ撮影旅行での公

ゾーンシステム研究会第12回写真展スナップ（1/2）

（2007.11.15-21 シリウス）

ゾーンシステム研究会第12回写真展スナップ（2/2）

（2007.11.15-21 シリウス）



ゾーンシステム研究会　第12回写真展　Technical Information

November 2007

	Photographer	Camera/Format	Film/Dev	Lens	Filter	Exposure	f/Stop	Paper	Zone
透過する光の観察	中島　秀雄	Wisnar　4x5	Tri X	Symmar 150mm		1/15 sec	45		白いボード　Zone VIII 草地　Zone III-IV
流木	中島　秀雄	Wisnar　4x5	Tri X	Symmar 210mm		1/4 sec	45		流木　Zone VII 石　Zone V
水差しのある空間	中島　秀雄	Wisnar　4x5	Tri X	Symmar 210mm		8 sec	45		水差し　Zone VII 壁　Zone V-VI 窓のカーテン　Zone IX (バーニング)
サングラスをかけた日系二世	中島　秀雄	ıubel-Makina　6x7cm	Tri X	Nikkor 80mm		1/15 sec	11 1/2		ショール　Zone VII-VIII
橋脚	荒井　崇	Tachihara　4x5	Tri X D76 Normal	Nikkor 150mm		30 sec	45	Rembrant V G2	橋脚内側のシャドー　ZoneIII 橋脚側面右側のハイライト ZoneVII
牛留湖	荒井　崇	Tachihara　4x5	Tri X D76 Normal	Nikkor 150mm		1/2 sec	32	Rembrant V G2	湖面のシャドー ZoneIII 上部森のハイライト ZoneVII
木の枝と炭の切り株	石井　政吉	Tachihara　4x5		Fujinon 150mm		1/2 sec	64 1/3		木（炭）　Zone II 木（枝）　Zone VI
岩	石井　政吉	Tachihara　4x5		Fujinon 150mm		1 sec	64		水（手前）　Zone V 岩　Zone VII
水と木（葉）	石井　政吉	Tachihara　4x5		Fujinon 150mm		2 sec	64		木（奥）　Zone III 手前の葉　Zone VI
High Tide	越後　久雄	Ebony　4x5	TMAX400	210mm	ND	8 sec	45	Rembrant V G2	
夢の島へ	岡崎　克之	Wista　4x5	TriX 320 (EI200)	Nikkor 150mm		1/15 sec	45		
CACTUS	小野　望	Mamiya 7　6x7cm	Tri X	65mm		1/2 sec	22	Rembrant V G2	カクタス　Zone　V 山　ZoneIV
NEW PLACE	小野　望	Mamiya 7　6x7cm	Tri X	65mm		1/15 sec	22	Rembrant V G2	岩の波状模様　Zone　V 岩山の上部　ZoneIV
FOREST	小野　望	Ebony　4x5	Tri X	250mm		1/2 sec	32	Rembrant V G2	手前の木立　Zone　V 白い花　Zone　VII

ゾーンシステム研究会　第12回写真展　Technical Information

November 2007

	Photographer	Camera/Format	Film/Dev	Lens	Filter	Exposure	f/Stop	Paper	Zone
共生	加藤　貞雄	Mamiya Press 6x9cm	Tri X D76 1:1	Sekor 50mm		1 sec	32	New Seagull VCFBII	樹　Zone III
春　—沖縄—	北野　龍一	Ebony 4x5	TMAX400 PMK Pyro	Fujinon 210mm		4 sec	45 2/3	Rembrant V G2 Oritone CV	
夏　—荒崎海岸—	北野　龍一	Ebony 4x5	TMAX400 PMK Pyro	Fujinon 250mm	Green	1/8 sec	22 1/3	Rembrant V G2 Oritone CV	
秋　—落葉—	北野　龍一	Ebony 4x5	TMAX400 PMK Pyro	Schneider 180mm		4 sec	45 1/3	Rembrant V G2 Oritone CV	
清涼	橘田　功	Ebony 4x5	TMAX 400	Nikkor 500mm		1/15 sec	22	BERGGER Prestige Variable CB	
大地を掴む	橘田　功	Ebony 4x5	TMAX 400	Nikkor 210mm		1/8 sec	16	BERGGER Prestige Variable CB	
豊かな流れ	橘田　功	Ebony 4x5	TMAX 400	Nikkor 180mm		1/15 sec	45	BERGGER Prestige Variable CB	
花火	橘田　功	Hasselblad 6x6cm	TMAX 100	Sonnar 150mm		1/30 sec	16	BERGGER Prestige Variable CB	
岩	小菅　秀一	Toyo-field 45 4x5	TMAX 100 （EI 64） XTOL(1:1)	Sironer 135mm		1/8sec	64	New Seagull VC- FBIIDektol Developer	
渓流	小菅　秀一	Toyo-field 45 4x5	TMAX 100 （EI 64） XTOL(1:1)	Symmer 150mm		2sec	45 2/3	New Seagull VC- FBIIDektol Developer	
HARLEY DAVIDSON XLH883	古谷津　純一	Deardorff 8x10	TMAX400	Nikkor 300mm		1/2 sec	45	Rembrant V G2	タイヤ= Zone III エンジン = Zone VIII
HERE COMES THE SUN	古谷津　純一	Deardorff 8x10	TMAX400	Nikkor 300mm		1/60 sec	32 1/3	Rembrant V G2	黒い砂 = Zone III 輝く水面 = Zone IX
ON THE SHORE	古谷津　純一	Deardorff 8x10	TMAX400	Nikkor 300mm		1/4 sec	32	Rembrant V G2	テトラポッド= Zone III 手前の白波 = Zone VIII
PLANT AT DUSK	古谷津　純一	Deardorff 8x10	TMAX400	Goertz 19 1/2in		1/5 sec	45	Rembrant V G2	スレードの壁= Zone III 窓ガラス= Zone VIII

ゾーンシステム研究会　第12回写真展　Technical Information

November 2007

	Photographer	Camera/Format	Film/Dev	Lens	Filter	Exposure	f/Stop	Paper	Zone
奥庭にて part1	酒巻　澄江	4x5	Acros	90mm		8 sec	32	Ilford	
奥庭にて part2	酒巻　澄江	4x5	Acros	90mm		4 sec	32 2/3	Ilford	
暮れる街	鈴木　武志	Hasselblad 6x6cm	Acros (EI 64)	Planar 80mm		1/8 sec	22	Ilford MG IV	
音を忘れた観光地	鈴木　武志	Hasselblad 6x6cm	Acros (EI 64)	Planar 80mm		1/125 sec	22	Ilford MG IV	
Civic Center I	長谷川　登	Ebony 5x7	Efke (EI 80)	Nikkor 210mm		1/4 sec	45 2/3	Rembrant V G2	中央の庇部分 Zone VIII
Civic Center II	長谷川　登	Ebony 5x7	Efke (EI 80)	Super Symmar 150mm		1/2 sec	32 1/3	Rembrant V G2	柱の暗部　Zone III
Shiodome N	長谷川　登	Ebony 5x7	Acros (EI 64)	Super Symmar 150mm		4 sec	32	Rembrant V G2	屋根（庇）の下（暗部） Zone III
Divergent surf, Point Lobos	畑　文夫	Wista 4x5	TMAX100 Normal	Super Angulon 90mm	Orange	1/2 sec	45	Rembrant V G2	中景の白波　Zone VIII
青林檎	浜野　次郎	Tachihara 4x5	TriX D76 1:1	Fujinon 210mm		4 sec	32	Rembrant V G2	林檎ハイライト　Zone VII 銅板　の暗部　Zone III
Water Tower	浜野　次郎	Tachihara 4x5	TriX D76 1:1	Fujinon 210mm		1/30 sec	32	Rembrant V G2	壁ハイライト　Zone VI 壁の暗部　Zone III
ネクタイ	松本　ひさ子	Wista 4x5	Tri X	Symmar 120mm		6 sec	45	Rembrant V G2	柄のハイライト　Zone VIII
CHIANG MAI	松本　ひさ子	Super Ikonta 6x6cm	TMAX400	Tessar 75mm		1/60 sec	8	Rembrant V G2	柵　Zone VII
Sea Rock	宮岡　貞英	Hasselblad 6x6cm	Plus X Pyrocat-HD	Sonnar 180mm	Orange	1/50 sec	22	Rembrant V コレクトール	影の暗いところ　ZoneIII
Water Fall	宮岡　貞英	Hasselblad 6x6cm	Plus X Pyrocat-HD	Sonnar 180mm		1/8 sec	22	Rembrant V コレクトール	岩肌の黒いところ　ZoneIII 水泡　Zone VIII

ファインプリントコレクション展鑑賞会

荒井崇

２００８年１月１２日（土）(13:00-15:00)、ギャラリー宙（荒井宅）にて、ファインプリントコレクション展鑑賞会を開催致しました。

当日は天候が雨にもかかわらず、１６名が参加。また鑑賞会の後は、例会、新年会（ギャラリーにて）も開催することができ、大変充実したイベントとなりました。

（参加者記録は定例会日誌を参照のこと）

今回は、昨年１１月に私の自宅ギャラリーで開催した展示をそのままにしておき、自宅ギャラリーで例会を行い、少しでも多くの会員の方に見ていただこうと企画してみました。

本展示作品は、私がコレクションした海外のファインプリント作家作品１０点と、研究会の会員作品１０点で構成しました。

会員の作品は、ここ１２年くらいの間に私が少しずつコレクションしたものです。「私たち会員の作品は、著名なファインプリント作家に引けを取らないレベルになりつつある。」ということを認識していただき、より一層作品作りに励んでいただきたいと考えてこの企画を提案しました。

当日は、中島代表に御願いし、１点ずつ作品の

解説を行ってもらいました。そして当日参加した展示作品の作者にも、作者本人による解説を御願いしました。

以下その際のコメントを記載致します。参考にしていただけると幸いです。

なお、作品解説は、紙面の都合で全て紹介しきれないため、今回は会員の作品のみとしました。次号以降で海外のファインプリント作品を少しずつ連載で紹介したいと考えています。

（できれば経歴等も紹介する予定です。）

【 Botanica, Ⅲ, 1999　中島秀雄 】

みなさんご存知と思いますが、中島代表のボタニカシリーズの１点です。

中島代表の奥様の父親は医者だったことがきっかけで、医学雑誌を手に入れたそうです。ある日、この医学雑誌と植物・野菜・果物を関連付け

て作品にしてみようと考え、このシリースを撮り始めたそうです。
（生物における DNA の元は同じはずであるという観点からこの関連付けを思いついたとのことでした。）
８×１０インチカメラ(レンズは 210mm)を真下へ向けての撮影は困難を極めたそうで、セッティングやブレの防止には、最新の注意が必要だったとのことです。
中島代表は、このシリーズを少しずつ撮り続け、いずれまとめて発表する考えだそうですので、御期待ください。

【 RUIN　岡崎克行 】
タイで撮影した作品です。
何度か現地へ行って撮影しようとしたが、いずれも撮影を止められたとのことでした。ある日、お金を出せば撮影させてもらえることを知り、数回目の訪問でようやく撮影できたそうです。
木のシャドーがつぶれないようにどう仕上げるかがポイントだったそうで、何と１５－２０枚くらいプリントしています。
「これで岡崎さんは、格段に腕を上げた。」（中島代表）作品だそうです。

【 思い出の場所　田中英司 】
研究会で八丈島へ行ったときの作品です。
八丈島は熱帯植物が非常におもしろく、この作品は、植物園の休憩所でのものだそうです。
当時八丈島は風が強く、飛行機が着陸の際、３回トライしてようやく滑走路に下りることが出来たとのこと。撮影の際も、みなさん風には悩まされたようでした。
トーンの整ったすばらしい作品です。

【 無題　石川昭 】
裏磐梯で撮影した雪景です。
当時石川さんは、「白がうまく出ない。」と言って悩んでいたそうです。
その頃石川さんは４×５インチで撮影していましたが、今は８×１０インチに切り替えています。
雪を被った木の造形が見事な作品です。

【 Snow Field　石井政吉 】
研究会の裏磐梯撮影会での作品です。
このとき、石井さんは初めて４×５インチで撮影したそうです。
使い方がいい加減で、中島代表に手取り足取り教えてもらい、ほとんど中島代表がカメラ操作を行って撮影したとのことでした。本人曰く「自分の作品と言ってよいのかどうか疑問です。」とい

う作品です。

しかしながら石井さんは、この作品以降、4×5を使い出してから目覚しく腕を上げて行きます。自己流から脱出し、技術的に開眼して、持ち味である表現のオリジナリティーを生かせるようになったのではないでしょうか。

【 Willow　畑文夫 】

公園で朝日が昇った時間に、柳の木と月を狙った作品です。

青空はオレンジフィルターで落としていますが、それでも月と青空の輝度差は、ほぼ同じ程度になってしまったそうです。

そこで月を覆い焼きしたのですが、これがなかなかむずかしく、朝日に照らされた木の輝きを多少犠牲にせねばならなかったとのことでした。

しかしながら作品としては、非常に魅惑的なイメージが良く表現されているのではないでしょうか。

ちなみに本作品は、645 カメラで撮影したものだそうです。

【 Paddy field　小野望 】

今は無き（地震で消失してしまった）山古志村の棚田を撮影した貴重な作品です。

小野さんは、よく一人でいろいろな場所へ撮影に行くそうです。光の具合など、事前にさまざまな情報を掴んでから現地に出向くとのことです。

棚田に当たっている光線の具合が絶妙で、非常に難しい状況をよく捉えている作品です。

小野さんは、現在体調を崩して療養中ですが、いずれまた会の活動に戻って来られると思います。そのときは、またすばらしい作品を私たちに見せていただけるのではないでしょうか。

【 The Stars and Stripes, Boston, MA
古谷津純一 】

ボストンの大学を撮影した作品。許可を取って撮影したとのことです。

星条旗は、この旗だけをモチーフにしている写真家も居るくらい、魅力的な国旗です。

古谷津さんの作品は、星条旗がこの上なく美しく表現されています。空のトーンもきっちりゾーン８で表現され、深く絞ってピントもすばらしい。完成度の高い作品です。

【 Whalers Cabin Museum　橘田功 】

この建物は、ポイント・ロボスの鯨博物館です。（研究会主催の撮影ツアーでの作品）

外の建物を撮影していたら館長さんが出てきて、「中も撮影して良いですよ」と言ってきたそうです。中は潜水具や鯨を捕るモリなどが展示されていたとのことでした。

何と横の大木の根で建物が持ち上がっていたとのこと。建物の手前はアワビの貝殻ですが、アメリカ人はアワビを食べないそうです。（日本では高く売れそうな大きなアワビですが。）

橘田さんの作品は、大変落ち着いたトーンにより、建物と大木が醸し出す独特の雰囲気が、余すことなく表現されています。

【 Corn　松本ひさ子 】

当時松本さんは、近所の農家に頼んで、新鮮な野菜が採れたら譲ってもらっていました。

とうもろこしは時間が経つと萎びてしまうので、後日撮影することはできないとのこと。いただいたその日の夜に撮影したそうです。

ライトを当て続けると物がだんだん反ってくる。接写なのでピントが浅くなってしまう。悪戦苦闘の末の作品だったようです。

本写真展におきましては、展示スペースの関係で、私所有の会員作品全てを展示することができませんでした。

そこで、今回展示できなかった会員の作品は、次の機会に展示させていただきたいと思っています。（第２弾も考えています。）

ぜひ御期待ください。

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会定例会日誌

2007 年11月10 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、畑、松本、北野、橘田、菅野、石井、荒井

・作品持参者：無し

●次回例会にて、写真展出展作品を複写し、記録を残す。撮影は小菅さんに御願いする予定。（ただし、後日、複写作業の延期が決定した。）

●来年１月の例会(1/12)は、荒井宅ギャラリーにて行う。（ファインプリントコレクション展鑑賞会を兼ねる。）

●２００８年の写真展はコンタックスギャラリー東京が借りられることになった。

●２００８年の写真展は、何かテーマを決めて行ったらどうか。（中島代表より提案有）

●今後、研究会の NPO 化も考えてはどうかとの提案があった。会員の長谷川さんはダークルームを NPO として立ち上げたメンバーなので、後日詳細を聞いてみる。

2007 年12月 8 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、菅野、松本、北野、橘田、古谷津、宮岡、浜野、鈴木（武志）、越後、岡崎、長谷川、荒井

・作品持参者：松本、北野、橘田、古谷津、浜野

●来年の総会はゲストとして平竜二氏（テーマはプラチナプリント）をお願いする。総会日程は平竜二氏のスケジュールをチェックした上で決定

する。
●長谷川さんからザイムのあきが出たとの連絡を受けたが、今回応募 するだけの会のコンセプトが出来ている訳ではないので、今回は見送ることにした。(役員会にて)

【写真展の反省と来年に向けての提案】
●今後は会の公式記録として、写真展出展作品をデジタルで複写し、記録を残したい。
●来年の写真展は、一人２点の提出を目標とし、内一点については会の共通テーマ「海」とし、他の一点は自由としたらどうか。（２点とも海であることを妨げない。）
●DM のデザイン／質をレベルアップし、貰った人が是非見たいと思うような魅力あるものに変える。その為の予算アップはやむを得ない。また、出展者の氏名を記載するようにしたらどうか。
●会場の設定について、６時終了、日曜休業は困るとのかなり強い意見が出された。来年はコンタックスに内定しているので、再来年以降富士フォト等をトライしてこの問題の解決を図ったらどうか。
●今回はパーティーへの会員参加人数が少なかった。（１０人以下）もう少し多数のメンバーが参加するよう考えたい。平日だったこともあるが、一昨年も平日だったがこれ程少なくなかった。
●毎回照明が問題となるが、今年は特に照度／色温度共に問題があった。抜本対策の結論は出ていないが、来年の写真展に向けて知恵を絞る。
●来年の写真展展示方法として、新しいアクリルへの切り替え、ドライマウントしてアクリルを外す等の対策も考えたらどうか。
●出展作品のサイズに関して１１x１４に戻すべしとの案が出ているが、結論を得るに至っていない。(来年、写真展実行委員が生まれるようなら、そこで検討してはどうか)
●タイトルは、日本語がよいとの意見あり。
●写真展は毎年時間に追われ、十分な時間がなくてやっつけ仕事に終わるのは問題として、来年は写真展実行委員を決めて前広に準備を進めてはどうかとの提案が出された。
●写真展作品の講評会を実施。

2008 年1月12 日(土)
ギャラリー宙（荒井宅）
・出席者： 中島代表、畑、松本、北野、石井、荒井、本田、酒巻、加藤、宇野、浜野、越後、山本、小菅
・見学者： 倉又、柳瀬
・作品持参者： 北野

●例会の前に、ギャラリー宙（荒井宅）での展示「ファインプリントコレクション展」の鑑賞会を実施（詳細は本文参照）
●総会での講演会は、平竜二氏に決定「プラチナプリントに関する講演」
●今年は、写真展実行委員会を立ち上げ、写真展をよりより良いものにして行く。
（実行委員は、幹事以外の一般会員も含めて参加希望を募り結成する。）
●今年の写真展サイズは１１×１４に戻すことを検討する。(原点に戻す)
●城ヶ島撮影会：１月２７日（日）10:00 城ヶ島バス停に集合。
●今年はテーマを「海」とする。海の撮影会を３回くらい行う。
●研究会１５周年に向けて、ポートフォリオの制作を検討する。
（記念碑的なもの。オリジナルプリントを他人の

手に渡すことで後世に作品を残すことを目的とする。)

●今後、ギャラリーでの写真展のみならず、その他の空間での展示も検討する。(家具店やオフィスなど)

●昨年「ウォルフレン展」が開催された。(デジタルモノクロプリント)

ウォルフレンは「日本人だけが知らないアメリカ世界支配の終わり」を書いたジャーナリスト。ギャラリーだけでなく、オフィス・家具ショップにも作品展示を行っており、大変参考になった。

●「柳沢信写真展」が開催されている。

柳沢信は中島代表の先輩(工芸大卒)。60-70 年代カメラ毎日連載で、独特のドキュメントスナップ作品が代表作。本展は、残念ながらモダンプリントの仕上がりが良くなかった。

外苑前ギャラリー「ときのわすれもの」にて開催中。(1/11-1/26)

●中島代表が実験中の、デジタルインクジェットプリントと銀塩バライタ印画紙の比較サンプルを見せてもらった。かなり近づいてきてはいるが、デジタルは、トーンの深み・立体感においてまだ不満があるとのこと。

●ギャラリー円月にてアンセル・アダムスのヨセミテ・スペシャル・エディション作品展が行われる。円月オーナーが昨年、ヨセミテツアーでコレクションしたものを展示。(１／３１－２／１３)

２／３(日)14:00-17:00 中島代表と春日氏の講演有り。

●会員の小野さん参加グループ展有り

「四季の彩り」日本写真家連盟展(１／１１－１／１７)富士フォトサロン

●例会後、ギャラリー宙(荒井宅)にて新年会を行った。

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

1. 写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。
2. 手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
   - ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、(スキャナーでパソコンへ入力します。)
   - パソコンの電子メール
   - ウィンドウズの Word2000-2003
   - text ファイル

   (ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。)

   ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。
3. イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

[編集部]　荒井　崇